『七祖法宝記』について

沖本克己

はじめに

方廣錩氏によって『蔵外仏教文献　第二輯』[1]が出された。そこに含まれる『七祖法宝記』は大正大蔵経第八五巻に含まれる『諸経要抄』の別写本であることが判明した。幸い畏友衣川賢次氏のご尽力で原本のコピーを入手することができた。

早速、その資料を用いてテキストの校合を行ない、あわせていくつかの問題点を明らかにしておきたいと思う。

テキストについて

校訂者の華方田氏によると、今回新たに発表された『七祖法宝記』下巻は、北京図書館蔵敦煌本「殷三八号」と「北京新本一二七二号」からなるという[2]。両者は紙質、字体、内容などの諸方面から判断して本来同一の巻子本であったとされる[3]。

現存文献は巻子本で一行約三十五字から四十字、前半部分は七十七行を保存する。特に文頭の傷みが激しく欠落のため一部判読困難であるが、現存するものは前から順に『仏蔵経諸法実相品第一』、『仏蔵経念仏品』、『仏蔵経念法品』、『仏蔵経』、『念誦経護法普通諸部』、『般若波羅蜜多心経』、『金剛三昧経真性空品第六』『大般若経魔愁品』、『仏蔵品』、『金剛経』、『仏蔵品』、『維摩経』、『法華経』、『金剛経』、『入仏境界経』、『楞伽経』、『思益経』が連続して引用されている。引用の仕方は比較的正確であるが、途中を省略して要録している場合が多い。

前半部分と後半部には断欠があるが、後に示すようにそれを大谷大学蔵本が補う形となる。後半部は百二十六行を保存する。

後半部の内容は、再び『金剛三昧経無相法品第二』の部分的な引用から始まり、それは同じく『金剛三昧経』の「無生行品第三」、「本覚利品第四」、「入実際品第五」、さらに「真性空品第六」とつづいている。つまり『金剛三昧経』のほぼ全体から長部に渡って引用しているのである。続いて『文殊師利所説般若波羅蜜経』、『決定毘尼経』、さらに経名不明の経典からの引用文がある。

これらの引用はいずれも大部で、現存する後半部の写本、つまり北京新本一二七二号のおよそ八割近くを占める。ただし、その引用の仕方は要文を適宜に撮要する手法である。その具体例の一端を後に掲載する校訂文の冒頭部分に記しておいた。

注目すべきはその後、つまり後半部分の九十三行目中程に『諸経大乗要抄』と記されていることである。この点については後に考えるとして、テキストの概観を先に述べるならば、この題名と思しき名前に続いて、『楞伽経』、『金剛経』、『思益経』、『楞伽経』、『法句経』、『金剛三昧経』、『思益経』、『維摩経』、『転女身経』、『決定毘尼経』、『薬師経』、『大仏頂経』、『仏蔵経』、『大仏頂経』、『法句経』、『金剛三昧経』、『維摩経』、『楞伽経』、『思益経』、『楞伽経』が引用される。これらの経典引用の形式はいずれも短く、前とは様相がかなり異なっている。なお、『大仏頂経』と『法句経』

の引用の間に、挿入句がある。

末尾には『七祖法宝記』の尾題があってそこで完結している。

ところで、『諸経大乗要抄』という書き込み以下末尾に到る部分は、『歴代法宝記』と比較すると、その順序は違うけれども、全く同じ文章であることが判明した。

つまり『諸経大乗要抄』の文字以下尾題の『七祖法宝記』の間は、『歴代法宝記』の異本であるから、それらのテキスト相互の成立史や題名に関する問題が生じるのである。

さらにその後の空白部分には四字三行にわたる四角形の蔵書印が押されている。これは「抱残翁壬戌歳新得敦煌古籍」と読める。これは北京本敦煌文献の蒐集と整理に深く関わった羅振玉の私蔵する敦煌文献蔵書印であることも同時に知り得た。[4] ここに記される「壬戌歳」とは一九二二年に当たるが、この写本がこの時に既に存在したのかどうかについては疑問とすべき点がある。そのこともあわせて次節で考えることにする。

ここではまず大谷大学本との校合を試みておこう。なお、テキストの大部分は経典の引用であり、『蔵外二』所収テキストには、該当する経典の所在を丹念に調査してその該当部分が逐一記されている。

今、便宜的に経典の引用毎に番号をふって整理をすると、

北京本〈殷三八号〉

（首欠）

（1）『仏蔵経諸法実相品第一』

（2）『仏蔵経念仏品』

（3）『仏蔵経念法品』

大谷大学蔵本

（首欠）

（1'）（途中から始まる。欠落部分多い）

（2）

（3）

(4)『仏蔵経』
(5)『念誦経護法普通諸部』
(6)『般若波羅蜜多心経』
(7)『金剛三昧経真性空品第六』
(8)『大般若経魔愁品』
(9)『仏蔵品』
(10)『金剛経』
(11)『仏蔵品』
(12)『維摩経』
(13)『法華経』
(14)『金剛経』
(15)『入仏境界経』
(16)『楞伽経』
(17)(『維摩経』)
(18)『思益経』
(尾欠)

(4)
(5)
(6)
(7)
(8)
(9)『仏蔵経』
(10)
(11)
(12)
(13)
(14)
(15)
(16)
(17)
(18)
(19)『涅槃経』
(20)『仏蔵経』
(21)『法句経』
(22)『金剛三昧経』

(23)『諸法無行経』
(24)『涅槃経』
(25)『花厳経』
(26)『楞伽経』
(27)『仏蔵経』
(28)『法華経』
(29)『楞伽経』
(30)『思益経』
(31)『思益経』
(32)『瓔珞経』
(33)『仏蔵経』
(34)『金剛経』
(35)『涅槃経』
(36)『仏蔵経』
(37)『金剛三昧経』
(38)『楞伽経』
(39)『禅門経』
(40)『大仏頂経』
(41)『般若心経』

〈北京新本一二七二号〉
（首欠）
（19）『無相法品第二』
（20）『無生行品第三』（表記無し）
（21）『本覚利品第四』（表記無し）
（23）『入実際品第五』
（24）『金剛三昧経真性空品下巻』
（42）『修多羅般若経』
（43）『思益経』
（44）『金剛三昧経』
挿入句（一）
（45）『楞伽経』
（46）『大仏頂経』
（47）『楞伽経』
（48）『維摩経』
（49）『金剛経』
（50）『文殊行経』
（51）『楞伽経』
（52）『決定毘尼経』
（53）『宝積経』
（54）『金剛三昧経序品第一』
（55）『無相品第二』
（尾欠）

(25)『文殊師利所説般若波羅蜜経　『歴代法宝記』(大正八五巻)　一八二下二六行から
(26)『決定毘尼経』(亦名『破壊一切心識』)　〃
『諸経大乗要抄』　一八三上一〇行目まで
(27)『楞伽経』　一八三上二二行目から
(28)『金剛経』　〃
(29)『思益経』　〃
(30)『楞伽経』　〃
(31)『法句経』　〃
(32)『金剛三昧経』　〃
(33)『思益経』　〃
(34)『維摩経』　〃
(35)『転女身経』　〃
(36)『決定毘尼経』　〃
(37)『薬師経』　〃
(38)『大仏頂経』　〃
(39)『仏蔵経』　〃
(40)『大仏頂経』　〃
(41)挿入句(二)　一八三下一行目まで
(42)『法句経』　一八九上二一行目から二四行目まで

(43)『金剛三昧経』　一八九中二行目から
(44)『維摩経』　〃
(45)『楞伽経』　〃
(46)『仏頂経』　〃
(47)『思益経』　〃
(48)『楞伽経』　一八九中一一行目まで
　又云　一九〇上五行目から七行目まで
　又云　一九〇上二二行目から二六行目まで

『七祖法宝記下巻』(完)

となる。大谷大学本は(1)の途中から始まり、北京本の断欠部分を補う形となる。即ち(17)の欠落部分は『維摩経』の名前と引用であり、以下の欠落部分は、大谷大学本によって補うことが出来るのである。即ち、北京本の欠落箇所には『涅槃経』、『仏蔵経』、『法句経』、『金剛三昧経』、『諸法無行経』、『涅槃経』、『花厳経』、『楞伽経』、『仏蔵経』、『法華経』、『楞伽経』、『思益経』、『思益経』、『瓔珞経』、『仏蔵経』、『金剛経』、『涅槃経』、『仏蔵経』、『金剛三昧経』、『楞伽経』、『禅門経』、『大仏頂経』、『般若心経』、『修多羅般若経』、『思益経』、『金剛三昧経』、挿入句、『楞伽経』、『大仏頂経』、『楞伽経』、『維摩経』、『金剛経』、『文殊行経』、『楞伽経』、『決定毘尼経』、『宝積経』の三十六項、経典引用は都合三十五回が順に入っているのが知られるのである。

さらに大谷大学本の末尾は『金剛三昧経』の抄録であるが、同じ『金剛三昧経』無相法品第二の抄録から始まるのが北京新本の後半部である。したがって、『金剛三昧経』を序品から順に抄録する形式を持つ大谷大学本後半部と北京

新本後半部の首部とは引用の態様から推して、ほぼそのまま接続すると考えられる。

かくて現存するテキストの全体は、北京図書館蔵敦煌本「殷38号」とほぼ平行して大谷大学本が始まり、その大谷大学本の末尾は「北京新本1272号」に連続することが明らかとなった。

以上により、元テキストにおける経典引用は延べ八十四回[5]、二十六種類（不明経一）であること、そして挿入句が二箇所にあるのがこの文献の残存部分の概要である。

なお、先に指摘したように、この挿入語以後の部分、即ち九十三行目以降は全て『歴代法宝記』にパラレルパッセージがある。それを同時に表にまとめておいた。完全に一致する様子が窺えるであろう。

引用経典について

上に指摘したように引用の仕方は長短を含めて様々であるが、以下に本論で引用される引用経典の一覧をあげる。

『仏蔵経』
『念誦経護法普通諸部』
『般若波羅蜜多心経』
『金剛三昧経』
『大般若経』
『金剛経』
『維摩経』

『法華経』
『金剛経』
『入仏境界経』
『楞伽経』
『思益経』
『文殊師利所説般若波羅蜜経』
『決定毘尼経』
『法句経』
『転女身経』
『薬師経』
『大仏頂経』
『涅槃経』
『諸法無行経』
『花厳経』
『瓔珞経』
『禅門経』
『文殊行経』、
『宝積経』

このうち、その翻訳がもっとも遅い経典は『念誦経護法普通諸部』である。これは大正大蔵経十八巻に納められ、金剛智（六六九―七四一）訳とされる。彼の活躍時期は開元十一年（七二三）から没年までとされるから、本文献の成立もそれを受けてのこととなる。

一方、本文献の成立年代判定にも役立ち得る『歴代法宝記』[6]は保唐寺無住（七一四―七七四）が没した七七四年以降の成立であるとされる。先に指摘した通り全くパラレルな部分が本文献に見出されるのだが、その先後関係はにわかには判定し難い。もし『歴代法宝記』を受けて成立したものであるならば、その成立は七七四年以後となる。しかし、後に見る吐蕃仏教との関係から、そのことは認め難い。

つまり、成立史と錯綜した構成に問題を残す『歴代法宝記』の元本のひとつで、比較的早期から編集されていたのではないかとも考えられるのである。そのことは北宗の諸師、あるいは荷沢神会（六八四―七五八）の引用する経典の内容やその引用の仕方とも共通するから、大いに有り得ることである。

ただし、現本には後半部に無住の言葉を載せるから、彼の存命中であったとしても、七七四年よりもさほど年代は遡り得ないということにはなる。

次に、『歴代法宝記』に引用書目としてあげられる経論には次のものがある。

『本行経』
『雑阿含経』
『普曜経云』
『応瑞経』

『文殊師利涅槃経』
『清浄法行経』
『無垢光転女身経』
『決定毘尼経』
『大仏頂経』
『金剛三昧経』
『法句経』
『仏蔵経』
『瓔珞経』
『花厳経』
『大般若経』
『禅門経』
『涅槃経』
『楞伽経』
『思益経』
『法華経』
『維摩経』
『薬師経』
『金剛般若経』

『付法蔵経』
『道教西昇経』
『釈法琳伝』
『釈虚実記』
『開元釈教』
『周書異記』
『漢法内伝』
『尹喜内伝』
『牟子』
『列子』
『苻子』
『呉書』
『并古録』
『及楊楞伽』
『鄴都故事』(7)

これらは必ずしも本文に利用される典拠と言うわけではなく、その羅列の意味も測りかねるのだが、多くの名称が『諸経要抄』と一致しているのが知られる。

一方、八世紀末頃、仏教導入に熱心であった吐蕃（チベット）に目を転ずれば、そこでは北宗に属するとされる摩訶衍禅師が短い隆盛の時を迎えていた。彼が『諸経要抄』を持っていたことは確実で、それによって『頓悟大乗正理決』を著わしている[8]。彼は貞元三年（七八七）の敦煌陥落[9]により吐蕃の首都ラサに迎えられたのだが、さらに大暦一一年（七七六）の瓜州陥落前後から吐蕃軍は包囲網を敷き、敦煌は孤立していたから、それを遡ること相当以前にこの『諸経要抄』は存在したと見なければならない。

また、時代は下ると思われるが、シナ禅宗の頓悟思想を主張した『唯一無想義』（ペリオ一一六号）[10]、『大瑜伽修習義』（ペリオ八一八、スタイン七〇五）[11]、等にも『依拠となる八十経』として本書が利用されていることから、かなりの範囲に伝播し影響力を持っていたことが知られるのである。

題名について

先に指摘した通り、北京新本には題名と思しきものが二つ記されている。ひとつは『諸経大乗要抄』であり、ひとつは『七祖法宝記』である。

『諸経大乗要抄』という名前は、首尾を欠いた、題名も不明の異本である大谷大学蔵・敦煌文献[12]に付された擬題『諸経要抄』と同一といってよい[13]。

大正大蔵経八十五巻は昭和七年（一九三二）に初版が刷られているが、そこに採録された大谷大学蔵本に付された仮題が既に十年前の年次を記す蔵書印を持つ文献に見えるのはほとんど有り得ない話である。

この擬題の命名の由来は定かではないが、ただ、これが大正大蔵経に採録するに当たって仮に付けられた題名であり、かつ何等かの根拠のあったものでもないことは確かだから、それとほぼ同じ題名が敦煌写本に記されていること

に奇異の念を抱かざるを得ないのである。

これらは果たして偶然の一致なのだろうか、それとも何等かの情報を大蔵経八五巻から得ていたのであろうか。つまり、両者には明瞭な関係があるのだが、その先後が確かではないのである。

もしこれが大正大蔵経を見た後で誰かによって付加されたものであるならば事柄は簡単なのであるが、コピーで見る限りそうではなさそうである。とすれば、このテキスト全体が贋作である可能性が高まってくるのである。仮に付けた名称が全く偶然にオリジナルに一致する可能性はほとんどないからである。

ただ、贋作だとしても、ではそれがいったい如何なる意図によって、誰が何処で作ったのかが考えられなければならない。もとよりそれらの全ては現時点では謎のままであるが、敦煌文献にさほどの骨董的価値も考え難い上に、これらを贋作するには相当以上の学力と知識を必要とするから、単なる好事家による贋作とは看做し難い。

それではこれらはいったい如何なる出自を持つのであろうか。既に推測に過ぎないのだが、いわゆる北京図書館蔵本が運ばれた時、かなりの敦煌本が流出し、収集家の手にわたったことが知られている。それらはよほどの僥倖でもない限り公にされる可能性はないが、売買される折に原本の筆写が行なわれた可能性は高い。つまり、現在我々が手にしている北京新本の多くはそうした近代の写本ではないか、というのが私の考えである。

特に本文献は『諸経大乗要抄』なる書き込みがある以上、大正大蔵経の存在を知って、そのことを意識して筆写されたものではないか、という疑いが強いのである。そしてそこに「壬戌歳」（一九二二）の年号を持つ蔵書印が押されたのである、と。

あるいはまた全く別に、方向を逆にして次のようにも考えられる。

北京新本は今回新たに発現したとされるが、そこに羅振玉の蔵書印があることは、一旦開かれて私蔵されたことを

意味する。その羅振玉は日本にも来ているから、当時大谷大学が蔵していた該テキストを見て、その題名を示唆した、という筋道である。

ただそれならば話にも整合性が出て来るけれども、もしそうであるならば、当時の日本の学者がそのことにもっと関心を示してもよいはずだが、ほとんど孤本のままの扱いであり、エピソードも何ひとつ伝わってはいないのはやはり奇妙である。

また、ここまでを『諸経要抄』と考え、それ以降、尾題の『七祖法宝記下巻』までは別のテキストと考えることが出来るかもしれない。ただし、そうすると、「下巻」という文字が如何なる意味を持つのか整合性がなくなり、説明が困難となってしまうのである。

かくてこの名称には大いに疑問があるのだが、紙質データや出現の由来について詳しい情報を持たぬ今はこれ以上は踏み込むことはできない。

ただ、ここに書かれていることそのものまでが贋作であるとは思い難いので、この問題はこれで終ることにしたい。

次に、ここにいう「七祖」とは誰かについて、華方田氏は引用される経典の特徴から推測して北宗神秀の弟子の普寂あるいは義福等ではないか、とする。[14]

たしかに、敦煌本禅籍のひとつである『伝法宝紀』[15]は達摩より神秀に至る七人の祖師の伝を列ねる初期禅宗史書の一つで、尾題は『伝宝紀七祖一巻』となっているが、ここにいう七祖は間違いなく北宗神秀（六〇六?―七〇六）の系譜、即ち普寂（六五一―七三九）あるいは義福（六五八―七三六）である。[16]

しかし、それに対して「師承是傍。法門是漸」として批判を加え、荒唐無稽ともいえる達摩伝衣説を持ち出して南宗の正系を主張したのが神会であった。[17]そしてその主張をそのまま継承するのが『歴代法宝記』の一派であるから、こ

こに七祖とは神会でなければならないだろう。そして、二ヶ所の挿入句はそのことを補強しているというべきであろう。

《テキスト翻刻》

〈凡例〉

A本：『諸経要抄』（大谷大学蔵敦煌本、首尾欠）
B本：『七祖法宝記』（北京図書館蔵敦煌本、殷38号、首尾欠）
C本：『七祖法宝記』（北京図書館蔵敦煌新本1272号、首欠）

主としてA本に従うが、欠落部分はB本、C本に従う。記号の用い方は、例えば、

〔A32〕如是教者是〔＝A無し〕名〔善知識。若人成就如是〔B28?〕相者世間希＝B欠〕

とある場合、A本三二行目には「如是教者名善知識。若人成就如是相者世間希」とあり、前から五字目の「是」はB本にのみある。対応するB本は二七行目後半から二八行目にあたるが、欠落が多く「如是教者是名・・・」しか判読出来ず、改行部分も特定出来ない、そのことを記号によって記してある。

また（　）は校訂者の注記、【　】は原文は細字で二行に分かち書きされていることを示す。

〔B1〕（首欠。B本のみ存）仏蔵経諸法実相品第一[18]。亦名選諸法[19]巻第〔一〕[20]

〔B 2〕　爾時舎利弗従三昧起。行詣仏所。偏祖右肩頭面作礼［白仏言。希有世尊。如来所説一切諸法］

〔B 3〕　无生无滅无相无為。令人信解[21]。舎利弗。譬如巧畫師。畫於［虚空現種種色相。於意如何。是畫］

〔B 4〕　師者為希有不。希有世尊。舎利弗。如来所得阿耨［多羅三藐三菩提。説一切法無生無滅無相］

〔B 5〕　无為。令人信解倍為希有[22]。舎利弗。譬如藕絲懸須弥山［在於虚空。於意云何。為希有不。希有世］

〔B 6〕　尊。舎利弗。如来所説一切諸法。无生无滅无相无為。令人信［解。・・・[23]］

〔B 7〕　无所有。一切世間所難信解。何以故。是法无想離諸想。无念［離諸念[24]。以無量智乃可得解。非以思］

〔B 8〕　量所能得知。无行无想无有悩熱［熱悩＝B］。无念過諸念。无心過諸心。无向无背。［無縛無解。無妄無妄法[25]。］

〔B 9〕　无説无不説。舎利弗。我此聖法。皆能降伏一切貪著。乃至説有法者。（B＝者説有者説）［不信楽諸法如実相者[26]。説辺］

〔B 10〕　者。皆違逆仏。与仏共諍。舎利弗。乃至於法少許得者。皆与仏諍。与仏［諍者皆入邪道。非我弟子。若］

〔B 11〕　非我弟子。則与涅槃共諍。与仏共諍。与法共諍。与僧共（以下、A本有るも首部は破損が大きい。）諍。舎利弗。如是見人。［我則不聴出家受戒。舎＝B欠］

〔B 12〕　利弗。如是見人。我則不聴受一飲水。以自供養[27]。但勤（B＝懃）修无相三昧。於无相三昧。又不取相。［是人通＝B欠］

〔B 13〕　達一切諸法相。皆是一相。所謂无相。

〔A 5〕　（以下はA本を主とし、B本を従とする。）仏蔵経念仏品云。悪知識。

〔A 6〕　［B 14］仏告舎利弗。若有比丘教余比丘。汝當念仏［念法＝A欠］

〔A 7〕　念僧念戒念施念天。唯愛涅槃畢竟［B 15］清浄。如是

〔A 8〕　教者名為邪教。謂是正教而是邪教。舎利弗。［如＝A欠］

〔A9〕是教者名為悪知識。是人名〔B16〕為誹謗於我助於
〔A10〕外道。亦為他人説邪道法。舎利弗。如是悪人我乃不
〔A11〕聴受一飲水以自供養。舎利弗。〔B17〕是念仏法断語言
〔A12〕道過出諸念。不可得念是名念仏。舎利弗。一切諸
〔A13〕念皆寂滅相。随順是法。此〔B18〕即名為修習念仏。〔不＝A欠〕
〔A14〕可以色念仏。何以故。念色取相貪味為識。无形〔无色＝A欠〕
〔A15〕无縁无性。是名念仏。是故當〔B19〕知。无有分別无〔取＝A欠〕
〔A16〕无捨。是真念仏。
〔A17〕仏蔵経念法品云。善知識。
〔A18〕〔B20〕舎利弗。是人爾時都无所有寂滅无性。不集〔諸相滅＝A欠〕
〔A19〕一切法。是則名為修習念仏。念〔仏名為＝B欠〕〔B21〕破善〔不善＝A欠〕
〔A20〕一切覚観。无覚无観寂然无想。名為念仏。何〔以故。＝A欠〕
〔A21〕不〔応以覚観憶念諸仏。无覚＝B欠〕〔B22〕无観名為清浄念〔仏。＝A欠〕
〔A22〕舎利弗。随所念起一切諸想皆是邪見。舎利〔弗。随
〔A23〕无所有无覚无観＝B欠〕〔B23〕无生无滅。通達是者名為念
〔A24〕仏。如是念中无貪无著。无逆无順。无名〔无相。无想
〔A25〕无語。乃名念仏。＝B欠〕〔B24〕是中乃无微細小念。何況麁身口
〔A26〕意業。无身口意業処。无念无分別。空寂无性〔滅
〔A27〕諸覚観。是名念仏。汝〔B25？〕念仏時莫取小想＝B欠〕莫生〔戯論。＝A欠〕

〔A28〕莫有分別。何以故。是法皆空〔无有体性。不可念一相。所
〔A29〕謂无相。〔B26?〕是名真実念仏。＝B欠〕何以故。如来不名
〔A30〕為色。不名為想。不名為念。不〔名為分別。不逆不順不取不捨。
〔A31〕〔B27?〕非定非慧。是〕人於仏猶尚不得。何況於念。舎利弗。
〔A32〕如是教者是〔＝A無し〕名〔善知識。若人成就如是〔B28?〕相者世間希＝B欠〕
〔A33〕有。得不顛倒真実見故。是為正見。復次舎利弗。正
〔A34〕見〔者。名為正作正行正道正解。无〔B29?〕有顛倒＝B欠〕如実而
〔A35〕見。是故如来説名正見。若生我想人想衆生想者。
〔A36〕當〔知。是人皆是邪行。＝B欠〕
〔A37〕〔B30〕仏蔵経云。悪知識。
〔A38〕舎利弗。人以清浄信等諸根出家学道。〔遇悪知識。悪
〔A39〕知識者。常好調＝B欠〕〔B31〕戯軽躁无羞。言語散乱不摂諸根。
〔A40〕心不専一痴如白羊。親近如是悪〔知識者。失須陀洹
〔A41〕果、＝B欠〕〔B32〕斯陀含阿那含果、阿羅漢果。乃至失於生天之楽。
〔A42〕況涅槃道。舎利弗。〔是人随悪知識。若生人中父＝B欠〕〔B33〕母
〔A43〕生離死亡喪失。親里衰悩国土破壊。生八難中捨
〔A44〕於楽処。遇悪知〔識生无仏処。若値仏世目不喜
〔A45〕見。＝B欠〕〔B34〕不喜聞法。不与仏衆而和合。
〔A46〕念誦結護法普通諸部。

〔A47〕三蔵金〔剛智授与灌頂弟子。＝B欠〕
〔A48〕〔B35〕凡欲〔＝B無し〕念誦先須護身結界澄想。観察本尊聖者。
〔A49〕起慈悲心愍念有情。発大誓願迴向菩提。方可〔B36〕念誦。
〔A50〕持四種念珠作四種念誦。一者音声念誦。二者金剛
〔A51〕念誦。合口動舌点誦是。三者三摩地〔B37〕念誦。心念
〔A52〕是也。四者真実念誦。如字義修行是也。能令行者
〔A53〕速証无上菩提。具一切智。此心真〔B38〕言。是一切諸仏
〔A54〕第一義。真如智中流出。非是作法顕現。如巧色摩尼
〔A55〕能満一諸願。一切諸仏同声共説。〔B39〕思惟之時。唯是明朗
〔A56〕亦不見身之与心。況无一物法非空故。若久能熟當自
〔A57〕証智。作是観時。誦密言曰
〔A58〕〔B40〕念此明者。即能証入一切灌頂曼荼羅位。於諸菩
〔A59〕薩祕密法門随意无礙。作是観時不復延促。〔B41〕務
〔A60〕在証入。若能一一与心相応方大成就。一切時処作
〔A61〕意任運相応。无所罣礙。一切妄想貪瞋痴等。〔B42〕〔不仮
〔A62〕断＝B欠〕除自然不起性常清浄。此真実法門。是一切
〔A63〕衆生自性清浄心名為円鏡智。上従諸仏〔B43〕下至衆
〔A64〕生。悉皆同等无有増減。但為无明妄想所覆。令
〔A65〕其法体不得顕現。作是観者便証解脱〔B44〕一切智三

〔A66〕 昧。名為地前三賢位。所有動作任運相応。自然進
〔A67〕 入初地生大歓喜。所以然者。以観月為方〔B45〕 便。具有三
〔A68〕 義。一月清浄義。離貪欲垢故。二者清浄源義。離
〔A69〕 貪嗔熱悩故。三者光明義。離愚〔B46〕 痴故。所以取月為
〔A70〕 喩亦莫作月解。世間者四大所成畢竟破壊。衆生
〔A71〕 自性清浄心无生〔B47〕 滅故。此是諸仏菩薩内証非二
〔A72〕 乗声聞外道所知境界。作此観者。一切仏法恒沙功
〔A73〕 徳不由他悟。此〔B48〕 一法摂无量。刹那悟入諸法中。自在
〔A74〕 无礙。従地至地漸漸昇進。学此観者。不得専守念
〔A75〕 以為〔B49〕 究竟。當須正念進修方便。然後証入究竟清
〔A76〕 浄法海。
〔A77〕 般若波羅蜜多心経。
〔A78〕 〔B50〕 三世諸仏依般若波羅蜜多。故得阿耨多羅三藐三
〔A79〕 菩堤。故知。般若波羅蜜多是大神呪。是〔B51〕 大明呪。是
〔A80〕 无上呪。是无等等呪。能除一切苦真実不虚。
〔A81〕 金剛三昧経真性空品第六。
〔A82〕 〔B52〕 舎利弗言。如尊所説在事之先。取以本利是念寂滅。
〔A83〕 寂滅是如。総持諸徳該羅万法。円融不二不〔B53〕 可思議。當
〔A84〕 知。是法即是摩訶般若波羅蜜。是大神呪。是大明

〔A85〕 呪。是无上呪。是无等等呪。仏〔B54〕言。如是如是。真如空
〔A86〕 性。性空智火焼滅諸結。平等平等。等覚三地。妙
〔A87〕 覚三身。於九識中皎然明〔B55〕浄。无有諸影
〔A88〕 若有衆生无余雑念。爾時菩薩常作化身権護是
〔A89〕 人。不離左右。
〔A90〕 〔B56〕大般若経摩愁品云。
〔A91〕 若有衆生。修行般若波羅蜜者。与不憶不念相応。
〔A92〕 一切魔〔＝摩A〕家眷属悉皆〔B57〕愁憂不楽。
〔A93〕 仏蔵経云。
〔A94〕 舎利弗。我法无諸難事。不乏飲食臥具医薬。汝等
〔A95〕 但當懃行仏道。莫〔B58〕貴世間財利供養。舎利弗。汝今
〔A96〕 善聴。我當語汝。若有一心行道比丘。千億天神皆共同
〔A97〕 心以諸楽具〔B59〕欲共供養。舎利弗。諸人供養坐禅。比丘
〔A98〕 不及天神。
〔A99〕 仮仏一切形像是。
〔A100〕 金剛経云。〔B60〕凡所有相皆是虚妄。若以色見我。以音声
〔A101〕 求我。是人行邪道。不能見如来。
〔A102〕 仏蔵経云。〔B61〕仏告舎利弗。我余経説。若人見法是為見我。
〔A103〕 如来非法亦非非法。【不順有相不依無相。即是見法。見法者見本性】何以故。調〔B62〕達

〔A104〕愚人及諸外道。皆以色身見仏。舎利弗。如来不応以色
〔A105〕身見。亦復不応以音声見。舎利弗。若人〔B63〕以色身見仏。
〔A106〕是去仏遠。所以者何。仏不名見名為見仏。【不依有見無見。即是不依正見】。
〔A107〕維摩経云。〔B64〕夫求法者。不著仏求。不著法求。不著衆
〔A108〕求。法名無染。若染於法乃至涅槃。是即染著非〔B65〕求法
〔A109〕也。法名無為。若行有為。是求有為。非求法也。法離見
〔A110〕聞覚知。若行見聞覚知。〔B66〕是即見聞覚知非求法也。
〔A111〕唯舎利弗。夫求法者。於一切法応無所求。
〔A112〕法華経云。〔B67〕無上宝聚不求自得。【若人不求種種世法。亦不求仏法。即是真求法人。】
〔A113〕真仏者。【識心見性悟理之人。即是真仏。】
〔A114〕金剛経云。〔B68〕離一切諸相。即名諸仏。【離有離無故。不垢不浄故。無生無体故。】
〔A115〕法身礼。入仏境界経云。〔B69〕仏常在世間。而不染世法。
〔A116〕以不分別世間故。敬礼無所観。虚空無中辺。諸仏身亦然。
〔A117〕心同虚空故。〔B70〕敬礼無所観。一切平等礼。無礼無不礼。
〔A118〕一礼遍合識。同帰実相体。【実相者、不順有相不依無相是。】
〔A119〕楞伽経云。〔B71〕爾時大恵白仏言。世尊。願為我説諸仏体
〔A120〕性。仏言。大恵。覚二無我。除二種障。離二種死。断二種
〔A121〕煩悩。〔B72〕是仏体性。大恵声聞縁覚得此法已亦名為
〔A122〕仏。我以是〔義但説一乗。

〔A123〕爾時世尊重説偈言。‖B欠〕〔B73〕善知二無我。除二障二惱。及不思議死。
〔A124〕是故名如来。仮三宝
〔A125〕［形像仏是仏宝。一切経論教法是法宝。‖B欠］
〔A126〕〔B74〕剃髪被袈裟受二百五十戒是僧宝。【若不識心不見性総無宝。】真〔三
〔A127〕宝。【見性之人、三宝具足。】
〔A128〕維摩経云。‖B欠〕〔B75〕寂根菩薩曰。仏法衆為二。仏即是法。
〔A129〕法即是衆。是三宝。［皆無為相。与虚空等。一切法亦爾。
〔A130〕能随此‖B欠〕〔B76〕行者。是為入不二法門。【不随有行不依無行、即是離法之人。】
〔A131〕思益経云。［若身証是法。亦不離身見法。亦不離法‖B欠］
〔A132〕見身。於是観中不見二相。不見不二相。（以上B本終了）如是現前知見
〔A133〕而亦不見。名聖默然。若有諸菩薩。於上中下法。
〔A134〕亦不取不捨。是名行菩提。若法及非法。不分別為二。
〔A135〕亦不得不二。是名行菩提。若二即有為。非二即無為。
〔A136〕離是二辺者。是名行菩提。是人過凡夫。亦不入法位。
〔A137〕未得果而聖。是世間福田。行於仏道時。無法可捨離。
〔A138〕亦無法可受。是名菩提相。一切無所念。是即如来法。
〔A139〕文殊師利菩薩問思益菩薩言。云何名為修道。思益
〔A140〕菩薩答言。若不分別是法是非法。離於二相。名為
〔A141〕修道。又問云、何名為修道。答言、不堕有不堕無亦

〔A142〕不分別是有是無。習如是者名為修道。
〔A143〕又問。何故不見。答。言離二相故不見。不見即是正見。若
〔A144〕説法不違仏不違法不違僧。名為説法。若知法即
〔A145〕是仏。【是仏宝】離相即是法。【是僧宝】無為即是僧。【是僧宝】
〔A146〕一人見性。分明三宝具足。涅槃経云。見性成仏道。
〔A147〕【除見性外。更有法門出三界得成仏者。無有是処。】仮戒。【因犯禁戒制戒是。此戒是方便戒。是不了教。只

許五

〔A148〕歳学五歳若不捨是真外道。是具足邪見人。】仏蔵経云。仏告舎利弗。
〔A149〕我説教者不説受者。舎利弗。於我法中多有如是
〔A150〕増上慢教。舎利弗。若受教者受戒五歳不能悉捨。
〔A151〕如是所教於是教中懃心精進自有得。無有比丘
〔A152〕不往諮問。我説此人雖有五歳猶名邪見。雑外道法
〔A153〕順行魔教。舎利弗。若有比丘受是教已聞空無所得法。
〔A154〕即自覚知。我先受者皆是邪見。於空無所得法
〔A155〕無悔。深入通達不依一切我見人見。舎利弗。我説此
〔A156〕人名為清浄梵行。
〔A157〕法句経云。若説諸持戒。無善無威儀。戒性如虚空。
〔A158〕持者為迷倒。
〔A159〕金剛三昧経。為説戒者。為不善慢故。海波浪故。如彼心

〔A 160〕地八識海。激九識流。浄風不動。波浪不起。戒性等空
〔A 161〕持者迷倒。諸方無行経云。若人分別戒。
〔A 162〕是則無有戒。若有見戒者。是則為失戒。戒非戒一相。
〔A 163〕知是為道師。涅槃経云。戒有二種。一者性自能持。
〔A 164〕二者須他教勅。若遇師僧白四羯磨。然後得戒。雖得
〔A 165〕戒已要憑和上諸師同学善友誨喩。乃知。進止聴法
〔A 166〕説法備諸威儀。是名須他教勅。
〔A 167〕花厳経梵行品云。若戒是梵行者。為壇場是戒
〔A 168〕耶。問、清浄是戒耶。教威儀是戒耶。三説羯磨是
〔A 169〕戒耶。和上是戒耶。阿闍梨是戒耶。剃髪是戒耶。
〔A 170〕著袈裟衣是戒耶。乞食是戒。正命是戒耶。如是
〔A 171〕観已於身無所取。於修無所著。於法無所住。過
〔A 172〕去已滅。未来未至。現在空寂。無作業者。無受
〔A 173〕報者。此世不移動。彼世不改変。此中何法名為梵
〔A 174〕行。従何処来。誰之所有体。為是誰由誰而作。為
〔A 175〕是有為是無。
〔A 176〕真戒。【一切衆生本来自有仏性。是持真戒者、識心見性人。是見性之時、想念不生。不起分別及有漏習。入無
戒。不自
〔A 177〕不他。不垢不浄。無我無人無念無分別無主無宰無悋無惜、百無所須。諸欲永息等同虚空。同無情仏身心不自。

戒犯不二能。如是

〔A178〕知者是真持戒人。〕

〔A179〕不浄説法。

〔A180〕楞伽経云。未来世當有。身著於袈裟。妄説於有無。

〔A181〕毀壊我正法。仏告大恵。彼愚痴人説有三乗。不説唯心無

〔A182〕諸境界。一切痴外道。妄見作所作。悉着有無論。

〔A183〕是故無解脱。涅槃離心意。唯此一法実。蔵識説為心。

〔A184〕思量以為意。心如白色衣。意識習為垢。垢習之所汚。

〔A185〕念心不顕現。若随言取義。建立於諸法。以彼建立故。

〔A186〕死堕地獄中。

〔A187〕仏告大恵。彼人愚痴不知。言説是生是滅。義不生滅。一

〔A188〕切言説堕於文字。義則不堕。離有離無故。無生

〔A189〕無体故。浄説法。

〔A190〕仏蔵経云。是人又能清浄持戒。無有瑕疵。

〔A191〕不垢不浄。自在智者所讃能自具足。随順禅定時

〔A192〕楽坐禅。如是比丘我亦聴受供養。舎利弗。身証

〔A193〕法者無有疑悔。我聴是人高坐説法。雖見凡夫清

〔A194〕浄持戒。心不貪著外道経義。一心懃求沙門上果。不貪

〔A195〕利養善巧定説。多聞広喩猶如大海。乃至失命猶不

〔A196〕妄語。不楽諍訟自利利他。唯説清浄第一実義。所説
〔A197〕如是。舎利弗。如是説者我聴説法。如来所説能使諸法
〔A198〕不相違逆。為説戒定恵解脱解脱知見。舎利弗。求利
〔A199〕比丘。為仏出家而破戒品。何用説法。何以故。舎利弗。
〔A200〕我経中説。若人不自善寂不能護。法能令他人善寂
〔A201〕自護。無有是処。如人自没汚塹欲出他人。無有是
〔A202〕処。若人自善寂。能出汚塹欲出他人。則有是処。是故
〔A203〕舎利弗。我今明了告汝。誹謗如来其罪不軽。実語比
〔A204〕丘応聴説法。非妄語者持戒比丘。則能法施。舎利弗。
〔A205〕高坐説法決定疑断。最是上事。若持戒不浄着外
〔A206〕道義。妄語者我則不聴。及貴世楽者。求利者。楽諍
〔A207〕訟者。我亦不聴。我聴浄持戒者。質直心者。通達諸
〔A208〕法実相者。高坐説法。舎利弗。破戒比丘寧當捨戒。
〔A209〕不著聖人相袈裟覆蔵罪垢。蜜作衆悪受人信施。
〔A210〕舎利弗。云何以小因縁。而於地獄受久遠身。阿難。譬
〔A211〕如悪賊於王大臣。不敢自現盗他物者。不自言賊。
〔A212〕如是阿難。破戒比丘成就非沙門法。上不自言我是
〔A213〕悪人。況能向余人説。自言罪人。阿難。如是経者。破
〔A214〕戒比丘。随得時聴能自降伏則有慚愧。持戒比丘

〔A 215〕得自増長。説是法時。九万諸天於諸法中得法眼浄。
〔A 216〕法華経云。我此九部法随順衆生。入大乗為本。
〔A 217〕楞伽経云。爾時大恵復請仏言。唯願為説宗趣之
〔A 218〕相。令我及諸菩薩善達此義。不随一切衆邪妄解。
〔A 219〕疾得阿耨多羅三藐三菩提。仏言。諦聴。當為汝
〔A 220〕説。大恵言唯。仏言。大恵一切二乗及諸菩薩。有二種
〔A 221〕宗法相。何等為二。為宗趣法相。言説法相。宗趣法
〔A 222〕相者。謂自所証殊勝之相。離於文字語言分別。入無
〔A 223〕漏界成自地行。超過一切不正思覚。伏魔外道生智
〔A 224〕恵光。是名宗趣法相。言説法相者。為説九部種種
〔A 225〕教法。離於一異有無等相。以巧方便随衆生心令入
〔A 226〕此法。是名言説法相。汝及諸菩薩當懃修学。爾［＝令A］時
〔A 227〕世［＝A無し］尊重説頌言。宗趣与言説。自証及教法。
〔A 228〕若能善知見。不堕他妄解。
〔A 229〕仏告大恵言。第一義者。是聖智内自証境。非語言分
〔A 230〕別智境。語言分別不能顕示。大恵言。説者生滅動
〔A 231〕揺展転因縁生。若展転縁生於第一義則不能
〔A 232〕顕示。第一義者。無自他相。言語有相不能顕示。第
〔A 233〕一義者。但唯自心。種種外相悉皆無有。言語分

〔A 234〕別不能顕示。是故大恵応常遠離語言分別仏
〔A 235〕分別。仏告。婆羅門乃至少有心識流動分別外境。
〔A 236〕皆是世論乃至心流動。是則為世論。分別不起者。
〔A 237〕是人見自心。
〔A 238〕仏告大恵。乃至少有言語分別生。即有常無常
〔A 239〕過。是故応除二分別覚勿令少在。
〔A 240〕乃至有所立。一切皆錯乱。若見唯自心。是則無為諍。
〔A 241〕愚夫楽妄説。不聞真実恵。言説三苦本。真実滅苦因。
〔A 242〕言説即変異。真実離文字。於妄想心鏡。愚生二種見。
〔A 243〕不識心及縁。即起二妄想。了心及境界。妄想即不生。
〔A 244〕我無上大乗。超過於名言。其義甚明了。愚夫不覚知。
〔A 245〕内自証不動。是無上大乗。
〔A 246〕思益経云。云何比丘随仏教随仏語。答言。称讃
〔A 247〕毀辱其心不動。是名随仏教。不随文字語言是
〔A 248〕名随仏語。又比丘滅一切諸相。是名随仏教。又云。
〔A 249〕身無所起心無所起。是名第一牢強精進。
〔A 250〕有諍法。思益経云。梵天言。云何比丘多諍訟。答
〔A 251〕言。是好是悪此名諍訟。是理是非理此名諍訟。是
〔A 252〕垢是浄此名諍訟。是善是不善此名諍訟。是戒

〔A253〕是毀戒此名諍訟。是応作是不応作此名諍訟。以是
〔A254〕法得道以是法得果此名諍訟。梵天若於法中有
〔A255〕高下心貪著取受。皆是諍訟。楽諍訟者。無沙門法。
〔A256〕楽沙門法者。無有妄想貪著。梵天言。云何比丘親
〔A257〕近於仏。答言。若比丘於諸法中不見有法若近若
〔A258〕遠。是名親近於仏。梵天言。云何比丘給侍於仏。答言。
〔A259〕若比丘身口意無所作。是名給侍於仏。楽瓔珞荘厳
〔A260〕方便品。【一部一巻成。亦名転女身菩薩問答経。】
〔A261〕若其無諍不可言説。以何等故説名無諍。須菩
〔A262〕提言。姉。如来世尊為声聞弟子仮名字説。女言。大
〔A263〕徳須菩提。若有仮名即有諍訟。若有諍訟即有
〔A264〕顛倒。若有顛倒非沙門法。須菩提言。姉何等是沙
〔A265〕門法。女言。大徳須菩提。無有文字。無有諍訟。無有
〔A266〕顛倒。是沙門法。亦不分別是法。是非法。是沙門法。又
〔A267〕不分別憶想不憶想。是沙門法。離一切著。是沙門法。
〔A268〕無心離意識。是沙門法。知足是沙門法。離有為法。
〔A269〕是沙門法。諸法如虚空。是沙門法。説是沙門法時。中
〔A270〕間所集聴法諸天。有四十天子。遠塵離垢得法眼浄。
〔A271〕仏蔵経云。【仏弟子修有為著相。非沙門法。】

〔A 272〕非沙門自称沙門。不応供養而受供養。名為常賊
〔A 273〕立憧相賊。名為自在殺害人賊。是人所食一口皆不浄。
〔A 274〕唯清有向道得道果者能消供養。舎利弗。我滅度
〔A 275〕後如是等人満閻浮提。専行行求利以自生活
〔A 276〕有為法。
〔A 277〕金剛経云。一切有為法。如夢幻泡影。如露亦如電。
〔A 278〕応作如是観。
〔A 279〕涅槃経云。有為功徳。多諸過患。
〔A 280〕仏蔵経云。我所説諸法。随順第一義。有為不堅牢。
〔A 281〕如夢之所見。
〔A 282〕金剛三昧経云。於有為法如避火坑。
〔A 283〕楞伽経云。若依止少法而有少法起。若依止於事此法即便壊。
〔A 284〕禅門経云。大乗妙義至理空曠。有為衆生而不能入。
〔A 285〕大仏頂経云。円満菩提帰無所得。
〔A 286〕般若子経云。無智亦無得。以無所得故。即菩提薩（土＋垂）。
〔A 287〕修多羅般若経云。仏告須菩提。若有善男子。
〔A 288〕善女人。発菩提心有所得者。即是邪見。邪見之
〔A 289〕人永不見仏。断一切智名為仏智見。凡夫有為。仏
〔A 290〕是無為。如是見者非平等見。見凡夫法空仏法

〔A291〕亦空。如是見者是名正見。
〔A292〕思益経云。世尊。云何具足六波羅蜜。梵天若
〔A293〕不念施。不依戒。不分別忍。不敢精進。不住禅定。不
〔A294〕二於恵。是名具足六波羅蜜。
〔A295〕金剛三昧経云。空心不動具六波羅。
〔A296〕此大乗頓教法門。為一切衆生本来自有仏性。千
〔A297〕経万論大小乗教文字言説。只指衆生本性見
〔A298〕成仏道。此法亦名反源。亦名反照。亦名反流。亦名
〔A299〕迴向。亦名無生。亦名無漏。亦名不起。亦名法離見
〔A300〕聞覚知。楞伽経云。如水瀑流尽。波浪即不起。
〔A301〕如是意識滅。種種識不生。大仏頂経云。
〔A302〕元是一精明。分為六和合。一処成休復。六用皆不行。
〔A303〕一根既反源。六根成解脱。反聞聞自性。性成無上道。
〔A304〕反見見自心。見性成仏道。
〔A305〕又云。若棄生滅守於真常。常光現時。塵根識心応
〔A306〕時消落。想相為塵。識情為垢。二俱遠離。則汝法
〔A307〕眼応時清明。云何不成無上知覚。
〔A308〕仏告阿難。如是清浄持禁戒人心無貪［婬。於外＝A欠］
〔A309〕六塵不多流溢。因不流＊溢旋源自帰。［鹿既不縁＝A欠］

〔A 310〕根無所偶。反流全一六用不行。十方国土［皎然清浄。‖A欠］
〔A 311〕楞伽経云。遠離於心識。亦離於五法。復離於［自性。‖A欠］
〔A 312〕是為仏種性。由依本識故。而有諸識生。［由依内識故。‖A欠］
〔A 313〕有似外影現。無智恒分別。有為及無為。［A本欠］。
〔A 314〕離質亦無影。蔵識若清浄。諸識浪不［生。依法身有報。‖A欠］
〔A 315〕而起浄分別。若不了無我。依教不依義。理教中求我。
〔A 316〕是妄垢悪見。不了故説有。唯妄取無余。離聖教正理。
〔A 317〕欲滅惑反増。是外道狂言。智者不応説。教理由故顕。
〔A 318〕當於此教理。勿更余分別。
〔A 319〕維摩経云。文殊師利菩薩。従無住本立一切法。
〔A 320〕金剛経云。一切諸仏。及諸仏阿耨多羅三藐三菩提法。
〔A 321〕皆従此経出文。【此経者即此心。是不生不滅故。不垢不浄故。離有離無故。影体俱離故。不依性相故。亦不順生。亦不依
〔A 322〕寂。亦不順有相。亦不依無相不沈不浮故。】
〔A 323〕文殊行経云。復次舎利弗。若有人言。過去未来
〔A 324〕於実際中。説有依処説無依処者。當知。彼輩誹
〔A 325〕謗如来獲大重罪。所以者何。彼真実際無憶无念
〔A 326〕亦無堕落。【无憶无念者即不順浮。亦无堕落者。即不沈空滞寂。此法不順有心。不依無心。順有心者即是波
〔A 327〕浪。依无心者即是。空見外道有无不二即是正見。】

〔A 328〕楞伽経云。天乗及梵乗。声聞縁覚乗。諸仏如来乗。
〔A 329〕諸乗我所説。乃至有心起。諸乗未究境。彼心転滅以。
〔A 330〕无乗及乗者。无有乗建立。我説為大乗。
〔A 331〕大乗非乗。非名亦非字。非諦非解脱。
〔A 332〕我無上大乗超過於名言。其義甚明了。愚夫不覚知。
〔A 333〕内自証不動。是無上大乗。
〔A 334〕決定毘尼経云。見凡夫有為仏。是無為。如是見者不平
〔A 335〕等見。見凡夫法空仏法亦空。如是見者是名平等
〔A 336〕見。見犯比丘不入地獄。清浄行者不証涅槃。如是見
〔A 337〕者名平等見。宝積経云　云何真供養仏。仏言。无仏
〔A 338〕想无法想无僧想。是名日日真供養仏。仏不名作。不名
〔A 339〕色。不名想。无作无色无想。是名真供養仏。
〔A 340〕金剛三昧経序品第一。
〔A 341〕爾時世尊。大衆囲遶。説大乗経。名一味真実際本
〔A 342〕覚利行。若聞是経。乃至受持一四句偈。是人則為
〔A 343〕入仏智地。能以方便教化衆生。為一切衆生作大知
〔A 344〕識。仏説此経已。結跏趺坐。即入金剛三昧。身心不動。
〔A 345〕爾時衆中。有一比丘。名曰阿伽陀。従坐而起。合掌跪
〔A 346〕跪。欲宣義意。而説偈言。

〔A347〕大慈満足尊。智慧通無礙。広度衆生故。説於一諦義。
〔A348〕無量諸菩薩。皆悉度衆生。為衆広染問。知法寂滅相。
〔A349〕入於決定処。如来智方便。當為入実説。随順皆一乗。
〔A350〕無有諸雑味。猶如一雨潤。衆草皆悉栄。随其性各異。
〔A351〕一味之法潤。普充於一切。如彼一雨潤。皆長菩提芽。
〔A352〕入於金剛味。証法真実定。決定断疑悔。一法之印成。
〔A353〕無相法品第二。
〔A354〕一覚了義難解難入。非諸二乗之所知見。唯仏菩薩乃
〔A355〕能知之。善男子。若化衆生無生於化。不生無化其化大
〔A356〕焉。令彼衆生皆離心我。一切心我本来空寂。若得
〔A357〕空心心不幻化。無幻無化即得無生。無生之心在於
〔A358〕無化。解脱菩薩。而白仏言。尊者。若有衆生見法生時。
〔A359〕令滅何見[28]。
〔C1〕（約十五字欠落）現識不生。无生可止[29]。
〔C2〕（約九字欠落）无止。亦不住於无止。亦不住於无住。云何是生。〔解脱〕菩薩白仏言。無生之心。有何取捨。
住
〔C3〕何法相。仏言。无生之心。不取不捨。住於不心。住於不法。不住諸行。心常空寂。無有異相。譬如虚空无有
〔C4〕動住。无起无作。无彼无此。得空心眼。得法身（原作＝身法）空。五陰六入悉皆空寂。善男子。修空法者。
不依三界。

〔C5〕 不住戒相。清浄无念。无摂无放。性等金剛。不壊三宝。空心不動。具六波羅蜜。[解脱菩薩。而] 白仏言。尊者。六波羅蜜者。

〔C6〕 皆是有相。有相之法。能出世也。仏言。善男子。我所説六波羅蜜者。无相无為。何以故。若人離欲。心常清浄。

〔C7〕 実語方便。本利利人。是檀波羅蜜。至念堅固。心常无住。清浄不染。不着三界。是尸波羅蜜。遠離名数。断

〔C8〕 空有見。深入陰空。是毘梨耶波羅蜜。俱離空寂。不住諸空。心処无在。大空是禅波羅蜜。心无心相。

〔C9〕 不取虚空。諸行不生不証寂滅。心无出入。性常平等。諸法実際。皆決定性。不依諸地。不住智慧。

〔C10〕 是般若波羅蜜。善男子。是六波羅蜜者。皆獲本利。入決定性。超然出世。无礙解脱。

〔C11〕 大覚満足尊。入於決定処。无相无有行。空心寂滅地。寂滅心无生。不壊於三宝。具六波羅蜜。

〔C12〕[30] 仏言。无忍无生心者。心无形段。由如火性。雖処木中。其在无所決定性故。但名但字。性不可得。欲詮其理。

〔C13〕 仮説為名。名不可得。心相亦爾。是決定性亦不一不異。不断不常。不入不出。不生不滅。離諸四謗。言語道

〔C14〕 断。无生心性亦復如是。心王菩薩言。如无生行。性相空寂。无見无聞。无得无失。无言无説。无知无

〔C15〕 相。无取无捨。云何取証。若取証者。即為諍論。无諍无論。乃无生行。総持无相。則无三受等三。悉皆寂

〔C16〕 滅清浄无住。不入三昧。不住坐禅。无生无行行。心王菩薩言。禅能摂動。定諸幻乱。云何不禅。仏言。菩薩

〔C17〕 禅即是動。不動不禅是无生禅。禅性无生。離生禅相。禅性无住。離住禅動。知禅性无有動静。即得无生。

〔C18〕 无生般若。[31] 一切境空。如何見。仏言。見即為妄。何以故。一切万有。无生无相。本不自名。悉皆空寂。一切

〔C19〕 法相亦復如是。一切衆生身亦如是。身上不有。云何可見。善男子。覚者不住涅槃。何以故。覚本无生。離

〔C20〕 衆生垢。覚本无寂。離涅槃動。住如是地心无所住。无有出入。仏言。一念心動五陰俱生。五陰生中具六十悪。

十

〔C21〕方遍計一念心生。尊者大覚尊。説生无念法。无念无生心。心常生不滅。入実際品。[32]

〔C22〕大力菩薩白仏言。尊者。如仏所説。五空出入无有取捨。云何五空而不取捨。仏言。菩薩五空者。三有是空。

〔C23〕六道影是空。法相是空。名相是空。心識義是空。菩薩如是等空。空不住空。空无空相。无相之法。有何取捨。

〔C24〕入无取地。則入三空。大力菩薩言。云何三空。仏言。三空者。空相亦空。空空亦空。所空亦空。如是等空。不住三相。

〔C25〕不无真実。文言道断。不可思議。菩薩无名義相。不可思議。何以故。无名之名。不在於名。无義之義。不

〔C26〕无於義。仏言。如是。衆生之心。実无別境。何以故。心本浄故。理无穢故。以染塵故。名為三界。三界之心。名為別境。是

〔C27〕境虚妄。従心化生。若心无妄。即无別境。仏言。菩薩彼心喘者。以内外使。随使流注。瀝滴成海。

〔C28〕大力菩薩言。云何存用。云何観之。仏言。心事不二。是名存用。内行外行。出入不二。不住一相。心无得失。一不一

〔C29〕地。浄心流入。是名観之。菩薩如是之人。不在二相。雖不出家。不住在家。故雖无法服。不具持波羅提

〔C30〕［木］叉。不入布薩。能以自心无為自恣。而獲聖果。菩薩。如是之人応不持戒。於彼沙門応不敬仰。仏言。為説

〔C31〕戒者。不善慢故。海波浪［故］。如彼心地。八識海澄。九識流浄。風不能動。波浪不起。戒性等空。持者迷倒。

〔C32〕金剛三昧経真性空品。[33]善男子。善不善法。従心化生。一切境界。意言分別。制之一処。衆縁断

〔C33〕滅。何以故。一切不起。三用无施。舎利弗言。不住事相。不无功用。是法真空。常楽我浄。超於二我海。大般涅槃。

〔C34〕其心不繋。是大力観一切万法。皆悉言文。言文之相。即非為義。如実之義。不可言説。今者如来云

〔C35〕何説法。仏言。我説法者。以汝衆生在生説故。説不可説。是故説之。我所説者。義語非文。衆生説
〔C36〕者。文語非義。不言義者。皆是妄語。善男子。是法非因非縁。打智自用故。非動非静。用性空故。
〔C37〕義非有无。空相空故。善男子。若化衆生。令彼衆生観入是義。入是義者是見如来。舎利弗言。
〔C38〕如来義観不住諸流。応離四禅而超有頂。仏言。如是。何以故。一切法名数。四禅亦如是。若見如来者。
〔C39〕如来心自在。常在寂滅処。不出亦不入。内外平等故。善男子。如彼諸禅観。皆為故想［＝想空］定。是如非
〔C40〕復彼。何以故。如観如実不見観。如相衆相。相已寂滅。寂滅即如義。如彼想禅定。是動非是禅。何以故。禅
〔C41〕性離諸動。非染非所染。非法非影。離諸分別。本義［＝利］義故。善男子。如是観定。乃名為禅。
〔C42〕舎利弗言。不可思議。如来常以如実。而化衆生如是実義。多文広義。利根衆生乃可修之。鈍
〔C43〕根衆生難以措意。云何方便令彼鈍根得入是諦。仏言。鈍根令彼受持一四句偈。即入実諦。一切仏法。摂在一
〔C44〕偈中。舎利弗言。云何一四句偈。願為説之。於是尊者。而説偈言。因縁所生義。是義滅非生。
〔C45〕滅諸生滅義。是義生非滅。[34]法従分別生。還従分別滅。滅諸分別法。是義非生（原作＝生非）滅。離識法即空。
〔C46〕故従空処説。滅諸生滅法。而住於涅槃。[35]一切空寂法。是法寂不空。彼心不空時。是得心不有。
〔C47〕法本无有无。自他亦復爾。不始亦不終。成敗則不住。不可思議。不思議聚。七五不生。
〔C48〕八六寂滅。无相空無。有空无有。无空无有。如尊所説。法義皆空。知有非実。如陽焔水。
〔C49〕知実非无。如火性生。如是観者。是人智也。以浄心見仏。以見仏故当生浄土。
〔C50〕性空寂滅時。是法是時現。仏言。由如暗室。若遇明灯。暗即滅矣。一入観時諸罪悉滅。文殊師利所
〔C51〕説般若波羅蜜経。諸仏世界无量光明。説無尽妙法。教諸菩薩入一相門。得无所畏。善降衆魔。教化
〔C52〕度脱外道邪見。若有衆生。楽声聞者。説声聞乗。楽縁覚者。説縁覚乗。楽世間者。説世間乗。
〔C53〕布施持戒忍辱精進禅定智恵。摂諸衆生。未度者度。未脱者脱。未安者安。未泥洹者。令得泥洹。究

〔C54〕竟菩薩所行。善入諸仏法蔵。如是種種功徳。皆悉具足。仏告舎利弗。若菩薩摩訶薩。聞此般
〔C55〕若波羅蜜。不驚怖畏。必定当得阿耨多羅三藐三菩提。是善男子善女人。当為大施主。
〔C56〕勝施主。无第一施者。[36]当具足戒忍辱精進禅定智恵。当具諸功徳。成就相好。自不怖畏究竟般若波羅
〔C57〕蜜。以不可得。无相无為。第一真実不可思議法故。迦葉譬如三十三天人。見波利質多羅樹。初生疱
〔C58〕時。作如是念。此疱不久。必当開披。如是迦葉。比丘比丘尼。優婆塞優婆夷。聞説此深般若波羅蜜
〔C59〕経。生歓喜。亦復如是。迦葉譬如摩尼珠。師見摩尼宝。心生歓喜。亦不仮思量。即知真偽。何以
〔C60〕故。以慣見故。譬如学射久就〔＝修〕即巧。復雖无心。箭発皆中。修般若波羅蜜。亦如是。譬如有人従遠方
〔C61〕来。後有人従彼方来。説彼方流泉浴池。花菓茂盛。勧彼人令交更説。若人聞般若波羅蜜。歓喜信
〔C62〕楽。不於一仏二仏。而種善根。以無量千万仏所種衆善根。得聞般若波羅蜜。信楽受持善男
〔C63〕子。善女人。聞此深般若波羅蜜。不生怖畏。当知是人受仏法印。此法印者。是仏所造。是
〔C64〕仏所貴。何以故。〔以〕此法印。印无着法故。仏説決定毘尼経【亦名破壊一切心識[37]】如是我聞。一時仏在舎
〔C65〕衛国。祇陀林中給孤独園。与大比丘衆千二百五十人。俱菩薩十万人。爾時
世尊。
如龍王視観
〔C66〕察大衆。〔観大衆〕已告諸菩薩。仁者誰能於後〔悪〕世。堪忍護持正法。以諸方便。成就衆生。
〔C67〕又舎利弗。師子獣王大吼之時。其余小虫。能〔堪〕忍不。不也世尊。又如香象。其所負重諸驢
〔C68〕騾等。〔能〕堪忍不。不也世尊。又如釈梵所有威徳光明色像。貧窮〔之人〕能堪忍不。不也世尊。又舎利
〔C69〕弗。於意云何。金翅鳥王所有勢力。鵞鴿等鳥。能堪忍不。不也世尊。如是舎利弗。菩薩所有
〔C70〕其心勇健。善根勢力。所有之罪依出離智。得見諸仏。又優波利。菩薩乗人持不尽護戒。
〔C71〕声聞乗人持尽護戒。菩薩乗人持開通戒。声聞乗人持不開通戒。優波利。菩薩乗人以日初

〔C 72〕分。有所犯戒。初［＝於］日中分思惟。当得一切種智。菩薩爾時不破戒身。優波利。如来観察籌
〔C 73〕量為大乗人。不応一向説厭離法。不応一向説離欲法。不応一向説速疾法。常当為説発歓
〔C 74〕喜心。相応説法。常応向説甚深无雑无悔纏法。常応為説无取无碍空无之法。
〔C 75〕優波利。如来先説欲難捨離。名為小犯。瞋易得離。名為大犯。爾時文殊師利語優波
〔C 76〕利言。一切諸法。究竟无垢。能自調心。乃能得見究竟毘尼。一切諸法。无有染汚。我不可得乃
〔C 77〕能得見无悔毘尼。仏告優波利。若有比丘作是思惟。欲断貪欲。名増上慢。作是思惟。見諸
〔C 78〕法空。名増上慢。作是思惟。見於无相。名増上慢。是名声聞住増上慢。云何菩薩名為増上慢。仏乗
〔C 79〕最勝作是思惟。我当於中。発菩提心。名増上慢。行六波羅蜜。当得作仏。作是思惟。名増上慢。
〔C 80〕般若波羅蜜能得出離。更無余法。而得出離。作是思惟。名増上慢。仏告優波利。若有比丘。思
〔C 81〕惟諸心時。不着思惟。是名最勝離増上慢。心心所思名為思。若有所思名有縛。若有思惟
〔C 82〕諸法空。是名着相［＝則住邪道］凡夫人。若有比丘常念仏。即是非真非正念。将知仏従分別起。実亦
〔C 83〕不可得。亦无生。是故无思能解脱。須菩提而白仏言[38]世尊云何応得。云何応住。云何修
〔C 84〕行。云何発阿耨多羅三藐三菩提。仏告須菩提。諸法自相空。即是三菩提。平等一相。无自
〔C 85〕无他。不縁境界。覚観心息。自然悟解。无有分別。是非処所。是人不久成仏。行我行処。到我到
〔C 86〕処。見我見処。住我住処。得我得処。坐我坐処。无有煩悩。若境若智。本来不生。本来不滅。不
来不
〔C 87〕去。不一不異。不因不果。非惟无有。亦復无无。不静不乱。不散不去。諸法无是有。修多羅般若波
〔C 88〕羅蜜如是有。如是発心。上求作仏。所以无求為求。下度衆生。所以无度為度。発菩提［薩＝C］心。有所得
〔C 89〕者。即是邪見。邪見之人。永不見仏。断一切智。名為仏智。須菩提白仏言。世尊所説修多羅般若波

〔C 90〕羅蜜甚深。何物是。仏言。空相是无相是。无造无作。（无起）无生无滅。无垢无浄。无所有无依止。无住処如虚空。

〔C 91〕是修多羅般若波羅蜜。甚深不可思議。不生不滅相。不垢不浄相。不散不乱相。不説不聴相。不言不義相。

〔C 92〕不得不失相。何以故。修多羅般若波羅蜜法中。无是諸法相。一切諸法。因縁和合有。皆悉畢竟空。求无処所。覓

〔C 93〕不可得。応知是解。色受想行識亦復如是。諸経大乗要抄[39]。楞伽経云[40]。乃至有所立。一切皆錯乱。

〔C 94〕若見於自心。則是无為諍[41]。又云。若依止少法。而有少法起。若依止於事。此法即便壊[42]。又云。随言而取義。

〔C 95〕建立於諸法。以彼建立故。死堕地獄中[43]。又云。理教中求我。是妄垢悪離。離聖道教正理。欲滅或反

〔C 96〕増。是外道狂言。智者不応説[44]。金剛経云。離一［切］諸相。即名諸仏[45]。又云。若以色見我。以音声求我。

〔C 97〕是人行邪道。不能見如来[46]。思益経云。比丘云何随仏教。云何随仏語。若称讃毀辱。其心不動。是

〔C 98〕随仏教。又云。若不依文字語言。是名随仏語[47]。比丘云何応受供養。答言。於法无所取者。云何消供

〔C 99〕養。不為世法之所牽者。誰人報仏恩。答言。依法修行者。楞伽経云[48]。如是種種相。堕於外道見。

〔C 100〕法句経云。若学諸三昧。是動非坐禅。心随境界流。云何名為定。金剛経三昧経云。我不入三昧。不

〔C 101〕住坐禅。是无生禅[49]。思益経云。不依止欲界。不住色无色。行如是禅定。

〔C 102〕是菩薩遍行。維摩経云。維摩詰訶舎利弗林間宴坐。訶須菩提大迦葉不平等。転女身経云。

〔C 103〕无垢光女訶天帝釈。汝声聞乗人。畏生死楽涅槃。決定毘尼経。菩薩乗人。持開通戒。声聞乗人。

〔C 104〕持尽遮戒尽護戒[50]。薬師経云。仏訶阿難。汝声聞人。如盲如聾。不識无上空義。仏頂経云。

〔C 105〕訶声聞人。得少為足。仏蔵経云。舎利弗。如来在世。三宝一味。我滅度後。分為五部。舎利弗。悪魔於今。

〔C 106〕由尚隠身。佐助調達。破壊我法僧。如来大智。見在故。弊悪魔衆。不（原作＝不不）能成其大悪。当来之世。

悪魔

〔C 107〕　変身。作沙門形。入於僧中。種種邪説。令多衆生。入於邪見。為説邪法。爾時悪人。為魔所迷（原作＝悉）。

各執所

〔C 108〕　見。我是彼非。舎利弗。如来予見未来世中。如［C無し］是破法事。故説是深経。悉断悪魔諸所執着。阿難。

譬

〔C 109〕　如悪賊於王大臣。不敢自見盗他物者。不自言賊。如是阿難。破戒比丘成就非沙門法。尚不自言我

〔C 110〕　是悪人。況能向余人説自言罪人。阿難。如是経者。破戒比丘随得聞時。能自降伏則有慚愧。持戒比丘。

〔C 111〕　得大増長。大仏頂経云。即時如来普告大衆。及阿難言。汝等有学縁覚声聞。今日迴心趣大

〔C 112〕　菩提［＝菩薩C］无上妙覚。吾今已説真修行法。汝由未識。修奢摩他。毘婆舎那。微細魔事。魔境見在。

〔C 113〕　汝不能識。洗心非正。落於邪見。或汝蔭魔。或復天魔。或着鬼神。或遭魑魅。心中不明。認賊為

〔C 114〕　子。又復於中。得少為足。如第四禅。无聞比丘。妄言証聖。天報已畢。衰相現前。謗阿羅漢。身遭後有。

〔C 115〕　堕阿鼻獄。所以釈迦如来。伝金襴袈裟。令摩訶迦葉在鶏足山。待弥勒世尊下生分付。今悪世

〔C 116〕　時。学禅者衆。我令達摩祖師。遂伝袈裟。表其法正。令後学者。有其禀承也。法句経云[51]。

〔C 117〕　説諸精進法。名増上慢説。若无増上慢。无善无精進。若起精進心。是妄非精進。若能心不妄。

〔C 118〕　精進无有涯。金剛三昧経云[52]。尊者大覚尊。説生无念法。无念无生心。心常生不滅。

〔C 119〕　維摩経云。不行是菩提。无憶念故。常求无念。実相知恵。楞伽経云。聖者内所証。常住

〔C 120〕　於无念。仏頂経云。阿難汝暫挙心。塵労先起。又云。見由離見。見不能及。思益経云。

〔C 121〕　云何一切法正。云何一切法邪。若以心分別。一切法邪。若不以心分別。一切法正。无心法中。起心分別。

〔C 122〕　並皆是邪。楞伽経云。見仏聞法。皆是自心分別。不起見者。是名見仏。又云[53]。随言而取義。

〔C 123〕　建立於諸法。以［已＝C］彼建立故。死堕地獄中。[54]又云。[55]八九種種識。如海衆波浪。習気常増上。槃根堅

〔C 124〕　固依。心随境界流。如鉄於磁石。如水瀑流尽。波浪即不起。如是意識［＝種種＝C］滅。［種種識不生。＝C無し］種種意生身。我説為

〔C 125〕　心量。［得无思相法。＝C無し］仏子非声聞。

〔C 126〕　七祖法宝記下巻

〈註〉

〈1〉宗教文化出版社、一九九六。以下『蔵外二』と略す。

〈2〉華方田「七祖法宝記下巻題解」『蔵外二』、一三三頁

〈3〉同右

〈4〉印鑑の分析は衣川氏よる。記して感謝の意を表する。

〈5〉なお『楞伽経』等は「又云」として再三引かれるから、それを合せれば九十一回となる。

〈6〉一巻。スタイン五一六、一六一一、一七七六、五九一六。ペリオ二一二五、三七一七。石井光雄旧蔵本（『石井積翠軒文庫善本図録』二〇）が知られる。保唐寺無住（七一四―七四）の滅後まもなく弟子によって編せられた。柳田聖山『禅の語録3　初期の禅史ＩＩ』筑摩書房、一九七六。

〈7〉『歴代法宝記』大正五一、一七九上。

〈8〉拙稿「摩訶衍の思想」、花園大学研究紀要第八号、京都、一九七七、一頁以下。同「西明寺と吐蕃仏教」禅学研究71号、一九九三、八五頁以下

〈9〉山口瑞鳳「吐蕃王国仏教史年代考」（『成田山仏教研究所紀要』第三号、成田、一九七八年）一～五二頁。

〈10〉拙稿「bSam yas の宗論（一）　―　Pelliot116について」、日本西蔵学会々報第二一号、五頁以下。同「□唯一無想義No.について　―　敦煌発見のチベット語テキストの校訂と和訳」、禅学研究第六六号、一五頁以下。

〈11〉拙稿「敦煌出土西蔵文禅宗文献の研究（2）」、印仏研第二七巻二号、一九七九、九一六頁以下。
〈12〉野上俊静編『大谷大学所蔵・敦煌古写経　続』大谷大学、一九七二所収。大正大蔵経八五、一一九二下―一一九七下。
〈13〉同右
〈14〉同右
〈15〉詳しくは『伝法宝紀并序』一巻。杜朏の編、開元初年（七一三）製。ペリオ二六三四（大正八十五所収）、同三八五八、三五五九。柳田聖山『禅の語録2　初期の禅史I』。筑摩書房、一九七一。
〈16〉柳田聖山『初期禅宗史書の研究』法蔵館、一九六七、九五頁以下参照。
〈17〉胡適『神会和尚遺集』台北、一九六八、三四四頁以下。
〈18〉大正一五、七八二下
〈19〉高麗版には、「奉入龍華経一名選択諸法」とある。大正一五、七八二下
〈20〉以下欠如。『仏蔵経』巻上（大正一五、七八二下）によれば、「一時仏住王舎城〔老/日〕闍掘山中。与大此丘僧俱。皆是衆所知識。及無辺大菩薩摩訶薩衆。無量無数。」とあり、次に続くが、欠字数はおよそ十三から十五字程度と考えられるから、この全てが原本に存した可能性は少ない。むしろここは表題のみであったかもしれない。以下『仏蔵経』等による補足部分を〔　〕に記す。
〈21〉以下、一一〇字を省く。
〈22〉以下、約五〇〇字を省く。
〈23〉以下、約四〇〇字を省く。
〈24〉以下、二四字を省く。
〈25〉以下、一三字を省く。
〈26〉以下、四六字を省く。
〈27〉以下、八四字を省く。
〈28〉A本は以下断欠。ほぼ連続してC本に続く。

〈29〉以下欠落。『金剛三昧経』の原文は、「是則無止。亦非無止。何以故。止無止故。解脱菩薩。而白仏言。尊者。若止無止。止即是生。何謂無生。仏言。菩薩当止是生。止已」（大正九、三六七上）とあり、次の引用につながるが、欠字数は約二十六字であるのに対し、経文では四十七字であるから約二十字が省略されているとみなければならない。

〈30〉以下『金剛三昧経』無生行品第三よりの抄録。

〈31〉以下、『金剛三昧経』本覚利品第四よりの引用。大正九、三六八中以下

〈32〉以下『金剛三昧経』入実際品第五からの引用。大正九、三六九中以下

〈33〉以下『金剛三昧経』真性空品第六からの引用。大正九、三七〇下以下

〈34〉以下は『金剛三昧経』如来蔵品第七よりの引用。『金剛三昧経』大正九、三七二上以下

〈35〉以下『金剛三昧経』総持品第八よりの引用。大正九、三七三下

〈36〉経の該当箇所では、「当為大施主。第一施主。勝施主。无等施主。」とある。（大正八、七三五上）

〈37〉『決定毘尼経』には「破壊一切心識」という副題はなく、内容もそれにはそぐわない。この名称は却って『歴代法宝記』に付せられた副題、「破壊一切心伝」に近く、それとの関連性を示唆する。

〈38〉『決定毘尼経』は須菩提を対告衆とはしない。また該当箇所も見当たらないので「須菩提」以下は別の経典であろう。ただし原典は不詳。

〈39〉以下は『諸経要抄』（大正八五、一一九二下―一一九七下）に一部共通するが、それよりも全てを『歴代法宝記』（大正五一、一七九上―一九六中）中に見出せる。

〈40〉『歴代法宝記』（大正五一、一八二下以下）

〈41〉以上四句は『諸経要抄』に共通する。〔A 240〕行参照。

〈42〉同上〔A 283〕参照。

〈43〉同上〔A 185-6〕参照。

〈44〉同上〔A 315-7〕参照。

〈45〉同上〔A 114〕参照。

〈46〉同上〔A100-1〕参照。
〈47〉同上〔A246-8〕参照。
〈48〉『歴代法宝記』（大正五一、一八三上以下）
〈49〉〔C16〕参照。
〈50〉〔C71〕参照。
〈51〉『歴代法宝記』（大正五一、一八九上以下）
〈52〉『歴代法宝記』（大正五一、一八九中以下）。また〔C21〕参照。
〈53〉『歴代法宝記』（大正五一、一八三上以下）。
〈54〉〔C94-5〕参照。
〈55〉『歴代法宝記』（大正五一、一九〇上以下）参照。同所では「和上引楞伽経云」とする。